

# 地域側から始めた連携づくり：県内外に向けて

千葉県八千代市 緑が丘西自治会会長 鈴木介人



## 1. 自治会同士のサミット

自治会からの課題提起から始まったのが、「ちば自治会サミット」です。これはもともと自治会の課題は住む地域が異なっても全国共通課題ではないかと思っただけからであることも、(公財) あしたの日本を創る協会主催の「自治会町内会講座」(令和2年1月開催)開催後に、講師を務めた名和田是彦先生と千葉県柏市の団体関係者との意見交換の中で種が生まれたものでありました。

その時は、これからの自治会の課題解決に向けての意見を交わした中での一つの提案だったのですが、そこから半年たったある日に「ポツリ」と、「そういえばあの話の企画はどうしてるの？鈴木さんやるんだよね？」との声があり、あの話は幻ではなかったのかとなりました。

「やるしかない」の勢いで動き出しました。

当時は柏市と八千代市との関係者としての意見交換でしたので、共通点としては両市は国道16号線沿いの地域のため、「16号線沿線自治会サミット」(※1)として案を進めていました。初めての企画のため、講師役に4名程度を選定し計画立案をしたところ、八千代市緑が丘西自治会、柏市地域協働を考える会(まちむら163号P46・柏市地域コーディネーター制度についての講演※2)と、千葉県成田市の成田ニュータウン自治会連合会の事務局長を務めていた伊藤幹夫氏に依頼をすることになりました。その当時伊藤氏は「新しい地域ネットワークの教科書」(※3)として、地域ネットワークに関する書籍を出版したことから、講師をお願いをしたものです。ここで問題となったのは、成田市は国道16号沿線ではないということ、それまでの「16号沿線サ

ミット」では題目が通じないとなり「ちば」の文字に急遽変更となりました。振り返ると当初は県域に向けてとは考えず、あくまでも有志による小さい手作りの研修会的なイベントでした。



自治会町内会講座での様子 (令和2年1月)

※1 国道16号沿線は都心から半径30〜40キロのところを千葉県富津市から神奈川県横須賀市を結び、高度成長期においては人口増加が集中的なエリアとなっており、互いに共通問題を抱えていると考えられた。

※2 あしたのまち・くらしづくり活動賞として両団体が振興奨励賞を受賞していた関係もあり、八千代市緑が丘西自治会、柏市地域協働を考える会からのメイン発表とした。

※3 「新しい地域ネットワークの教科書〜ご近所の共助があなたの未来をひらく〜」(伊藤幹夫著 あさ出版) サミットを通じて知り合い、伊藤氏が体調を崩しながらも個人的なつながりから動画での講演などの企画を進めていたが、病気で亡くなられたとのことであった。ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げたい。伊藤氏は「まちむら」の愛読者でもあった。

## 2. サミットを開催してみて

【第1回(令和4年1月29日)】

自分自身の活動エリアである八千代市で開催して一からの実績作り(※4)であり、またコロナ禍であったことから難産的なスタートとなりました。県内外から参加を60名ほどいただき、遠くは広島県からZOOMによる

参加がありました。第二部のディスカッションでは今日の自治会の課題はどこでも多く抱えていることを改めて認識しました。それらの結果から参加した関係者からはサミットの開催を継続する必要性が認められていくようになりました。

【第2回(令和4年9月24日)】

第1回から変えた点は講演会場を隣接の2部屋(※5)を用意して講師は6名としました。この時の企画案では、①女性で活躍している方、②空き家問題、③外国籍の方との取り組み、④デジタル対応、⑤高齢世代、⑥空き家などをテーマとしました。講師の属性も、自治会、企業、国土交通省からの職員など多岐に渡り、様々な



第3回ちば自治会サミット(流山市)

方々から自治会や地域に対する取り組みや知識についてお教えをいただくことになりました。

【第3回(令和5年2月5日)】

流山市からサミットを実施したいとお話をいただき流山市主催にての開催となりました。関係者にとっては、自分たちの活動が自治体からも一定の評価を得られることは喜びでありました。開催は1会場方式で実施し、流山市からも事例の講義をお願いしました。また、流山市主催により流山市民がメインであることから市外の方は限定枠によって参加できる枠組みを構築するなどの配慮をいただき、開催に際しては市のご理解と職員の尽力には大変感謝を感じました。

※4 八千代市では最初の開催であることから市に相談した結果、後援のみでの支援となった。第4回まで開催をしているが八千代市での開催は後援のみとなっている。このような活動は資金的に厳しいものがある。(市主催は除く)

※5 2部屋での講演スタイルは、著者が茨城県において「関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会」で千葉県側として発表をさせていただく機会があり、都県から多彩な講演者が発表し多方面の話が聞けることが、自分にとっては知識を増やすためにも、飽きさせない取り組みであり大変良かったと感じていたことから行った。



# ちば自治会地域サミット

スケジュール 講演者を含め予高なく参加になる場があります。

5階：小ホール4階：講習室	
12:40	開場 (5階小ホールエントランスにて受付)
13:00	開会挨拶 ちば自治会サミット実行委員会幹事代表 鈴木 介人 (やちひ福祉文化協議会会長)
13:10	基調講演 全国各地での自治会取組事例と課題解決に向けてのアイデア
13:30	公益財団法人山梨総合研究所 研究員 宇佐美 淳氏 法政大学 公共政策学博士 元中野市議員
13:40	「新入副会長からの男女、多世代による自治会運営のヒント」
14:00	「新入副会長からの男女、多世代による自治会運営のヒント」 八千代市副会長 佐藤 昌子 副会長 川田 勝代
14:10	「船橋市小室40さい」
14:30	「船橋市小室40さい」 「～住み続けたい街へ～」 「危機意識」を持つと～ 船橋市小室地区自治会副会長 橋本 浩二 副会長 高橋 隆
14:40	「ケアからはじめるまち育て」
15:00	「ケアからはじめるまち育て」 多文化「ふくせいのまち」 代表理事 藤代 幸一 私生活「ふくせいのまち」活動員 藤代 幸一
15:10	グループ相談会
16:00	まとめ発表 各会議室にてグループ発表
16:30	閉会挨拶 集合記念撮影実施、解散します。

## 【基調講演】

公益財団法人山梨総合研究所 研究員 宇佐美

## 3. 第4回ちば自治会地域サミット

令和5年9月9日八千代市にて開催し、名称について「地域」をプラスすることで自治会以外も興味を持っていただけるように参加できる題名としました。講義については2会場講演方式として、近隣市からの事例と、先進事例からの学び、これまで戸建エリアが中心の自治会講演でしたが区分所有(団地、マンション)の問題が増加することが今後想定されることから、それらのテーマを盛り込むこととした。

## 第4回ちば自治会地域サミットチラシ

- ① 「青葉台町会協議会のまちづくりの歩みと今後の挑戦!!」(まちむら163号p43)(市原市青葉台町会協議会顧問兼392)事務局(長)
- ② 「船橋市小室40さい」として船橋市小室地区(団地、戸建て、新興住宅)での連携した地域づくりの紹介(船橋市小室地区連絡協議会前会長)
- ③ 「ケアからはじめるまち育て」として多古町社会福祉法人からの取り組みで障がいがある方々がまちを歩くことによってできる人とのつながりなどや地域の活性化についての紹介。(多古町・たこ足ケアシステム代表)
- ④ 「新入副会長からの男女、多世代による自治会運営のヒント」として副会長になって1年目の奮闘記(八千代市・緑が丘西自治会)
- ⑤ 「マンションを取り巻く現状と対策について」国土交通省からの今後のマンション政策についてご紹介や取り組みについて(国土交通省住宅局マンション担当)
- ⑥ 「私のマンション自治会奮闘記防災と意見形成」と題して、マンションコミュニティでは、ある程度距離をとった生活を望む人

## 【講演者の皆さん】第一部

がいるなかで、自治会として防災への取り組みなどを通して住民の安心安全や、意見形成への取り組み(八千代市・グリーンハイツ八千代自治会会長)

講師を探すのはいつも大変ですが、地域で活躍している方はまだまだ多くいると思います。その方々に感謝し応援するためにこのサミットでの発表は良いと考えています。また、講演を聞いた方がすぐに自分の地域でできなくても、可能な範囲でできるように組み立てていければ良いと思います。大きすぎても困難になることがありますし、無理なく持続的にできる取り組みが良いと考えています。

※6 宇佐美淳氏とは知人の紹介からつながり、人の関係は大事だと気づくエピソードである。元行政職員で地方自治について熱心に研究しており、地域担当者制について著書「コミュニティ・ガバナンスにおける自治体職員の役割」を公人の友社から出版。

## 【グループディスカッション】第一部

講演会などは通常見られる取り組みですが、第一回の開催から、講演を聞きに来た方も講演者も一緒に討議しています。というのも第一回の企画会議の際に、研修会ではないつも解決への導きがなかなか難しいとのアドバイスがあったことから、講演者から提案のみならず、参加者も一緒に解決できることを



第4回でのディスカッションでの討議・報告

討議しようとプランしました。但し、企画側も当然「いきなり初対面同士に会話できるのか？討議できるのか？」という不安がありました。

そこで、①参加者の名札、②進め方のスケジュール、討議する内容を決める（自己紹介、討議内容の提示）、③一定のルールを設定する（長時間の会話禁止、途中での意見変更可能）、④グループ内のファシリテーター役をつける（発言機会の確保のため中断やまとめ）、⑤一定の発言機会を得るためと記録を取るために「付箋」を使うことでその場なるべく整理できるようにする、といったことを決めました。結果は、グループ単位での和気あいあいによる発表が！なぜか知らない人同士できています。地域への愛着や取り組みが同じ立場であることや、ディスカッションを通して、意見が交わることでの一体感があるのではと思います。これらの活動を通して、地域課題解決のヒントや導きなどを得て持ち帰っていただくことにしています。

#### 4. サミットのまとめ

サミットでは、自治会や地域の活動の発表とともに、将来の課題として国土交通省から職員を派遣していただき、区分所有建物の課題対応について備えるテーマを入れてみまし

たが、市民啓発のためにもこのようなミックスティタ取り組みが全国に広がることを期待しています。また、現場感を知っていただき政策に反映できるきっかけになればと考えています。

ここで大変ありがたかったのは、あしたの日本を創る協会から受賞を受けている県内取り組みがあったことに他ならず、協会の存在なくして活動している皆さんと知り合うことがなかったことから、協会には今後も取り組みを継続してほしいと願っています。

この取り組みでの驚きは従来の市町村などの行政主催ではなく現場・住民視点からの主導であることや、土曜開催であることから、県内の複数市から職員や関係者が多く参加していることでした（※7）。別の意味では職員向けの研修にもなっていたことや、多種多様な方々が参加して様々な意見があることこのプログラムの研鑽になっていると思えます。これらの学びや気づきによりバージョンアップされていくことで、他市からの主催事業での相談依頼をいただくことにつながっているように感じています。

※7 地域向けの企画であること、いくつもの講演が複数あること、ワークショップも組み込むなどがあげられるが、地域の意見や県内各地から様々な意見が聞けることはなかなかない機会でもある。（つづく）